

書の世紀」を絵に描いたようである。両国政府ともに、NGO活動にはまだ理解が浅いことも特徴だった。

中国四川省地震被害に對する緊急医療支援活動は、「中国語が話せることと中華人民共和国の医師免許」が求められた。幸いにも、AMDAには三つの可能性があった。

一つは96年2月に発生した雲南省大震災緊急救援と四川省・青海省雪害緊急救援を実施した時の人間関係が、四川省成都市と徳陽市に残っていた。

二つ目はAMDA台湾支部の存在だった。台湾の医師は中国本土で医療ビジネスを展開するため、中国の医師免許を持っていた。三つ目は、AMDA上海の存在だった。雲南省救援の時の人間関係

とになる。「21世紀は災

中国四川省大地震 AMDAの救援活動

で、その後も中国国内で巡回診療をボランティアで続けていた。

最初のグループは5月14日、スーファン市の避難所となっていた体育館で調整員1人、医師1人、看護師2人の4人のチームとして診療活動を開始。二つ目のAMDA台湾グループは、5月15

16日に成都空港に到着し、綿陽市の避難キャンプでの仮設診療、四川大学西華病院や四川中医药大学付属病院で、骨折や打撲の整形外科手術や被災者の精神的な後遺症の治療を行った。合計11人の医師と8人の看護師を派遣した。雲南省救援にも加わっていた汪達紘医師（岡山大学院医歯薬学総合研究科公衆衛生学教室助教）を派遣

すること、被災地での調整能力が増した。岡山大学に感謝したい。三つ目のAMDA上海グループには、最後まで救援活動の機会がなかったのは残念だった。

中国政府は海外からの救援医療チームには厳しい対応だった。AMDAがいち早く医療チームを派遣できたのは、信頼関係に基づくネットワークのおかげだった。特に、07年9月に締結した台湾の「私立病院・診療所協会」とAMDA本部との災害相互支援協定により、同協会から中国の医師免許を持つ多数の医師と看護師が派遣されたのは幸いだった。なお、倉敷市周辺の真言宗のお寺で構成されている「南真会」の方々と、AMDAが活動

している「南真会」の方々と、AMDAが活動している被災地でお米を贈るなどの救援活動が

世界各地で発生する大規模災害被災者救援活動に、AMDA多国籍医師団を派遣する源は、AMDA支部、姉妹団体そして大学などの団体である。「憂いがあればこそ備えあり」のネットワークである。「救える命があればどこへでも」のローガンに忠実になんばりたい。今後とも皆様方の暖かいご理解とご支援をお願いしたい。

できたのも新しいご縁だった。今後、日中青年交流協会との連携によるチベットの住民被災地区での巡回診療、四川省中医薬科学院との協定による皮膚病治療の共同研究、金光教平和センターとの生活物資支援を予定している。

世界各地で発生する大規模災害被災者救援活動に、AMDA多国籍医師団を派遣する源は、AMDA支部、姉妹団体そして大学などの団体である。「憂いがあればこそ備えあり」のネットワークである。「救える命があればどこへでも」のローガンに忠実になんばりたい。今後とも皆様方の暖かいご理解とご支援をお願いしたい。

世界各地で発生する大規模災害被災者救援活動に、AMDA多国籍医師団を派遣する源は、AMDA支部、姉妹団体そして大学などの団体である。「憂いがあればこそ備えあり」のネットワークである。「救える命があればどこへでも」のローガンに忠実になんばりたい。今後とも皆様方の暖かいご理解とご支援をお願いしたい。